

**国際学生フォーラムに  
参加して  
(参加学生所感)**



一週間お世話になって、本当にありがとうございました。国際学生フォーラムに参加していた学生になって、とても嬉しかったです。いいチャンスになり色々な事を勉強になりました。

国際学生フォーラムに参加する前発表とセミナーの内容について心配していました。発表はどうかお茶の水大学の先生が厳しいですかセミナーは難しいですかという事を心配していましたが、国際学生フォーラムを終わってから前の心配していたことが全然起こらなかったです。思ったより楽しいフォーラムの内容も非常に面白かったです。先生や国際学生フォーラムの係人は優しいしよくお世話になって、とても感動しました。

また、3っ日間で東京ツアーのプログラムは楽しかったし、初めて災害についての博物館へ行って新しい知識をもらいました。日本は私の国より災害についての博物館が多いし、面白いし私にとっては素晴らしいツアーと思います。

更に、発表の日と災害対策についてのセミナーの日は様々な事をもらいました。発表の日は違う国の大学生から発表を聞いて、他の国の災害についてが分かるようになりました。発表の方に質問をしていた時に私は様々な意見を言って、発表の方から良い答えをもっらて嬉しかったです。災害対策についてのセミナーの日もいい知識をもっらて、発表の方と日本人の学生と意見を交換していて非常に役に立つセミナーと思います。

国際学生フォーラムに参加していた私がこのフォーラムは大変感動しました。新しい友達や色々な国からの文化を勉強する事だけではなくて新しい視点が見えるようになりました。国へ帰ってからからなず友達や周りの人にフォーラムから学んだ事を伝えたいとおもいます。お茶の水女子大学から今回のフォーラムに参加していただいて、本当にありがとうございました。

## 感想文

チェンマイ大学・人文学部・日本語学科 アピヤカンタクン タンヤポーン



まず、一番言いたいことがあります。先生たちに伝えたい言葉なんですけれども、一周間くらいお世話になりまして本当にありがとうございました。次に、バディたちは大変な一周間をとお疲れ様でした。

さて、今回のフォーラムについての感想を話したいと思います。3つを分けて言います。

1つ目は気持ちについてです。日本に来る前に災害のフォーラムのイメージが難しそうなことなので、本当に緊張していたんです。日本に到着した8日には私の携帯電話がインターネットできなくてバデーに伝えられなくなってしまったけど、バデーたちが迎えに行ってくれたのは感激しました。それで、どうするかどうかは緊張しなくなってきました。

2つ目は知識をもらえました。今回のフォーラムは会議室だけいることなく、10日と11日は外に出る活動があります。それは思っていた以上に、日本の歴史や防災体験などをいっぱいもらえました。一番好きなのは東京一日ツアーです。その日は江戸東京博物館に行ったり、江戸時代の話を知ったりしました。私にとっては江戸時代について興味があるので、すごく素晴らしい経験だと思います。

最後は友達できました。今回のフォーラムは世界中の人たち集まりなんです。つまり、日本、韓国、米国、ポーランド、中国とタイです。それで、一周間くらい一緒に遊んだりお互いに発表したりすることは本当に得難い機械だと思います。タイでは起こらない災害をよくわかったり、それぞれの人たちが日本語と英語で意見を交換したりしまして一番素晴らしいところです。

以上に3つわけて今回のフォーラムに関する私の感想です。ありがとうございました。

## 感想文

ワルシャワ大学・日本学科 アンナ・パホルスカ、ウルシュラ・アルトマイエル



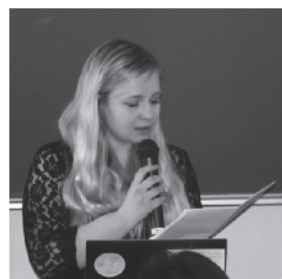
2017年2月8日から17日までお茶の水女子大学の国際学生フォーラムに参加しました。このとき色々な国の学生と交流して、お互いの文化を学んで、仲良くしました。ですけれどもフォーラムに参加した理由は主にそれぞれの国の災害について勉強して、とても貴重な経験になりました。毎日大事な話を聞かせてくれて感謝しています。例えば1923年の大変な地震、そして火事について勉強して、それは感動的な体験でした。勉強だけではなく、色々な面白いところに行きました。

例えば歌舞伎座、そして素敵な日本の公園など。茨城県まで旅行して、電子発電所を見学させてもらいました。あの日は見物しながら大事なものを勉強しました。

東京江戸博物館に行って歴史についても知ることができました。そして皆と一緒においしい食べ物を食べました。ポーランドで和食を食べる機会がめったにないのでそれはとてもうれしかったです。

毎日、国際学生と話し合っって色々な面白いものを聞きました。例えばお互いの国の文化や災害について知ることができました。ポーランドには洪水しか災害がないので地震や旱魃などについて学ぶ良い機会になりました。それぞれの国は違ういろいろな災害があることにびっくりしました。世界中どこでも災害が起こるかもしれないということに分かり旅行をするときなどは気をつけなければいけません。ですから一番大事なのは準備することです。皆のプレゼンの時には色々な準備の方法について学びました。そして皆のプレゼンを聞く機会があつて大変うれしく思っています。

皆は頑張つて素晴らしい発表をしました。それぞれの皆さんは自分の国の災害について詳しい資料を集めて発表できました。発表の準備をすることは最初は大変だと思いましたが、結局にうまくできました。まず緊張しすぎて発表をしながら皆の顔を見て落ち着きました。結局はよかったです。



このフォーラムに参加できて感謝しています。お茶大の皆さんはやさしくて、仲良くしました。もちろん機会があつたらまた、お茶大に帰りたいです。先生方も学生も大変お世話になりました。まことにありがとうございます！



私たちは、” Disaster prevention learned from tradition and wisdom”というテーマでシンポジウムでの発表を行った。私たちは歴史を専攻しているため、歴史から学べる災害について考えていった。調べていくうちに、過去から学ぶことの重要性を知った。私たちの発表では、過去の災害に対する様々な対処法や、防災に対する心構えを後世にどう伝えていくかを皆さんに紹介した。災害の歴史から学び、将来に起こるであろう災害にどう向き合っていくか、またこれから起こる災害を将来にどう伝えていくかを皆さんに考えていただけたなら幸いである。

私たちは二人とも、今回初めて英語でプレゼンテーションを行った。原稿やスライドの作り方、そして話し方など、わからないことだらけであったが、協力して準備し、発表を終えることができた。しかしながら、今回のプレゼンテーションで様々な課題が見つかった。大きく分けて三つある。一つ目は、発表する際に伝えたいことが多すぎて、情報をかなり多く入れてしまい、全てを伝えることができなかったということだ。二つ目は、外国からいらした留学生への配慮が足りなかったことだ。明治三陸地震津波、昭和三陸地震津波、東日本大震災について紹介したのだが、日本のどこでその地震が起こったのか、留学生の方に質問を受けた。日本地図を用いて、もう少しわかりやすく説明しておくべきだったと感じた。三つ目は、語学力である。英語で質問を受けても、伝えたいことが英語でどう表現すればよいのかわからず、全て日本語でお答えする形になってしまった。また、強弱をつけるなどして、もっと皆さんに語りかけるように話せればよかった。これから語学力をもっと磨いていきたい。

日本の他の発表や海外学生のプレゼンを聞いて、世界の災害と防災について学ぶことができた。また、様々な国の多様な価値観から生まれる、具体的な提唱・解決策が非常に興味深いと感じた。特に、海外では災害が少ない場所が多いため、日本よりも危機意識が低いという課題点や、日本の中でも災害を「ひとごと」と考える風潮があるということについて多くの人が考えていかなければならない問題だと感じた。

今回、復興記念館や池袋防災館といった震災・防災に関する施設、原子力科学館や東海テラパークのような原子力発電について学べる施設での体験を経て、これまで知っているようで知らなかった様々な知識を得ることができた。過去から災害・防災について学ぶことで未来に生かしていきたいと思った。

さらに、私たちは東京ツアーを担当したため、企画を立案・実行することの難しさも学ぶことができた。大人数を案内しながらスケジュール通りにツアーを行うのは大変だったが、非常に有意義な学びに繋がったと思う。





今回のフォーラムは英語での交流やプレゼンテーションを学ぶことを主な目的として考えていたが、それだけでなく災害・防災について詳しく学び、真剣な議論ができたという点も大きな収穫であったと思う。



私は今回の国際学生フォーラムを通して、自分自身の様々な面を再確認し、それらと災害の関わり方を考えた。

まず世界6カ国8大学から、いろいろな学生が集まって一つのテーマについて考えたことで、私は海外の人たちに、日本で実際にあったことや経験したこと、幼いころから学んできて当たり前だと思っていることについて伝えることができるという、自分の日本人としての一面に気づいた。これは日本で日本人と関わっているだけではわからない点であった。韓国の学生のプレゼンテーションで、「慶州地震が起きた時、これが地震だと理解するので精一杯で、それだけで地震が終わってしまった」と言っていたのが印象的であった。日本人は地震に慣れているためすぐに地震が起きたということを理解できるし、どんな行動をとればいいのかもわかっている。もし自分が外国人と一緒にいるときや海外にいるとき

に地震が起こったら、落ち着いて状況を把握し、何をすればいいのか周りに指示できるようなリーダーシップを持ちたいと思った。

このフォーラムに参加した人の中には、お茶の水女子大学の学生も含めていろいろな専攻の学生がいたが、その中で食物栄養を学ぶ学生としての自分も見つかった。食物栄養学科の教授の研究を参考に、食という観点から災害を捉えるプレゼンテーションをし、他の分野を学ぶ学生に対して新しい視点を提供できたと思う。私の学ぶ“食”は、平常時も災害時も人間の身体にとって必要なものであるが、今まで災害時の食についてあまり考えたことがなかったため、今後の学科の勉強では、主体的に、災害という観点から食を捉え、学ぶ機会を作りたい。

そして家族や友達など普段関わっている人はもちろん、全世界の人たちに対して、国際学生フォーラムに参加した学生として伝えられることがたくさんあると思う。ボランティアや支援をする際に気をつけるべきこと、日本ではあまり起こらないものも含めて、それぞれの災害が起きた時にどう行動すべきか、また防ぐ、被害を最小限にするにはどうすればいいかなど、周りの人に発信していきたい。

最後に、この国際学生フォーラムで様々な知識や視点を手に入れたが、私が最もこれから大切にしていきたいものは、出会った色々な国の友達との絆である。もしフォーラムに参加していた国で何か大きい災害が起きたら、心配して連絡するだろう。もし自分が被害を受けて大変な思いをしているときに、海外の友達も自分を心配しているとわかったら、それだけで嬉しいと思う。これからもこの絆を大事にして、いざというときにお互いに頼りあえるような関係を築き、保っていきたいと思った。



最初、大学の先生から連絡を受けました。お茶大でこういうプログラムが行われるけど、参加してみるかい？と。お茶大への留学を考えている私にとっては絶好のチャンスでした。申込者が多くて、学校内での面接もありました。運が良かったか受かってこのフォーラムに申し込みできる資格が与えられました。

パートナーのサンハと毎日会って発表の準備をしました。最初は「グローバルネットワーク構築、そして大学生として私たちができること」というテーマがあまりにも難しく、何について発表すればいいかさっぱりわかりませんでした。ですがゆっくり考えてみたら、去年韓国で起こった慶州地震が思い浮かびました。それを思い出して「韓国人の安全不感症」について発表することにしました。一生懸命原稿を書き、パワーポイントを作り、スムーズに発表できるよう何度も練習をしました。日本に着いても、毎晩サンハの部屋に集まって練習をしました。それで発表日の13日までは日程が終わってもどこかに遊びに行くとか、出かけることはできませんでした。

いよいよ発表日になり、シンポジウムが始まりました。私たちの順番は昼の後だったので、みんなの発表を聞きながら順番を待ちました。待っている間、「大丈夫、うまくいける！」とみんなが応援してくれました。すごく緊張していましたが、おかげで少し楽な気分で発表ができました。自分が直接経験したことについての発表でしたので、誰より素直で意味のある発表ができました。

今回のフォーラムで一番大きい課題だった発表以外にも、もっと豊かに災害と危機管理について勉強ができるよう、お茶大の方から準備してくださった色々なプログラムがありました。関東大震災と東京空襲の犠牲者を慰める慰霊堂や災害時どうすれば良いか、対処法を教えてもらえる池袋の防災館、そして原子力発電について学べる茨城の東海電力テラパーク。どれもすごく勉強になり、観光ではとてもできない特別で貴重な経験でした。そして学生さんたちが直接調べて日程を立てた東京ツアーの日も良かったです。親切にもガイドさんにまでお願いしておいて、説明を聞きながら江戸東京博物館を観覧することができました。あと清澄庭園で散歩もしました。最後に歌舞伎座に行って歌舞伎の化粧法と見え、そして服の勉強もできました。ただ一日だったんですけど、日本の伝統的な魅力を味わうのには十分な時間でした。

このように、色々な勉強ができて嬉しいですが、お茶大の学生さんたちとの交流する時間が思ったよりなくて少し残念でした。日程は一緒にしましたが、ある学生は交流するどころか道案内するので精いっぱいでした。学生だけでやっていくプログラムも悪くないと思いますが、個人的には少し残念だと思います。でも一緒に寮に泊まりながら、海外から来た学生さんたちと特に仲良くなれて嬉しかったです。

楽しくて本当に意味のある10日間になりました。機会があれば、ぜひお茶大にまた訪れたいと思います。ありがとうございました。



フォーラムなんて、堅苦しすぎる。このフォーラムに参加する前にも、参加することになってからも、そう思っていました。しかし、実際10日間のフォーラムを終えてみたら、全然そうではありませんでした。自由に意見を話し合い、枠に囲まれず、学校の外でも、学校の中でもいろいろ学ぶことができて、とても充実した10日間でした。

世界各国から来た大学生たちが、日本語という一つの言語でつながるということはとても新鮮で、不思議でした。タイ語やポーランド語のような、私が話せない言葉を母国語とする人たちと話し合えるなんて、めったにない経験だと思います。

災害と危機管理というテーマでいろいろなアイディアが出て、意見を話し合うことで、元のアイディアがより具体的で完成度の高いものになっていくことを目にしたのは、とても貴重で楽しい時間でした。そ

の中で、ものをいろいろな角度で見ることの大切さも知りました。それはフォーラム中に何度か出た、他人事を我が事に換えて考えることにつながると思います。

被害地域を訪れた学生、専門家、特に実際被害を受けた方の話を聞いたこともとても貴重な経験でした。彼らが強く、心を込めて話すことが伝わって、災害がもっと身近に感じられました。

「日本語でもっと話してみたい」という考えで参加したフォーラムでしたが、災害に対してもっと責任を感じるきっかけとなりました。災害をゼロにすることはできないけれど、被害を最小限にすることはできる。私たちはその方法をこれからももっと工夫して行かなければならないと思います。

私とは関係ないと思っていたことがそうでなくなる。我が事、自分事。もっと身近に感じる。それが災害と危機管理を改善するための一歩ではないかと、フォーラムを終えた今ならばはっきりと言えます。私だけではなく、もっと多くの人々にそう思ってもらうために、もっと考えて、もっと行動したいと思います。

いろいろな人と出会い、意見を話し合い、視野を広げることができる特別な経験を、ありがとうございます。いつかまた会える日を楽しみにしています。



私はお茶の水女子大学の第6回国際学生フォーラムに参加することが出来て、本当に嬉しいです。この10日の間はすごく短かったのに、たくさん面白くて、大切なことを学びました。私はこのフォーラムの前に、今年のトピック「災害と危機管理-グローバルなネットワークの構築にむけて」にあまり何も知りませんでした。ですが、皆さんのお陰で、災害について何をすればいいことをすることになってきました。そして、9大学の5国からの人たちと友達に慣れて、とても嬉しいです。

私は去年、お茶の水女子大学の日本語サマープログラムに参加していたのに、このフォーラムの経験は全然違いました。もう一度お茶大に来ることが出来て本当に感謝しています。私はすぐ日本語のサマープログラムの後で、絶対にもう一度「日本に来たい」と思ったけど、

この早くにもう一度来られるに、全部はまだ私に少し夢見たいです。

私は高校生の時から日本の歴史と文化が少し知っていたと、大学で日本語と日本文化の授業を取ったのに、この10日の時で、色々なアメリカで学べないことを学びました。特に、学外スタディーツアー1と2や東京1日ツアーで日本の大切な歴史と文化を学びました。例えば、学外スタディーツアー1の前に、関東大震災に何も知っていませんでした。両国の横網町公園の復興記念館を始めてみて、悲しくなってきた、少し泣きたかったの感じが増えてきました。関東大震災の除去を聞いてと、その無力の感じを始めて感じました。それに、池袋防災館で地震と火事の安全性を学びました。実は、今年の一月に、私の家の地下で小さい火事があって、もし両親がその時に家にいなかったら、私はどうするが分かりません。だが今、消化器の使い方を学んで、もし火事があったら、もっと自信があります。アメリカではあまり地震と洪水がなくて、そんな時にどうすればいいが全然分かりませんでしたが、もし他の国に行ったらとその悪いことがあって、私は今正しいことが知っています。

さらに、原子力はアメリカであまり使わないから、もっと原子力についての情報を学びました。この三つのツアーの日で、私の一番好きな日は東京1日ツアーです。私は江戸時代の歴史と文化に興味があって、江戸東京博物館に来た時はとてもワクワクしていました。そして、清澄庭園で少し散歩してと、湖の景色はすごく綺麗でした。最後に、銀座の歌舞伎座で歌舞伎についてたくさん学びました。

ツアーの日の後で、皆さんは国際シンポジウムに多分少し緊張していたけど、全部の発表はすごく上手でしたと思います。皆さんの国でおこった災害と普通の災害の発表はすごく面白かったです。そして、皆さんの大学生が何を出来るの部分でとてもいい考えを聞きました。ゲストスピーカーの三人の発表も日本での問題と今何をしているとどうやって私たちが手伝うも面白かったです。

このフォーラムの終わった時、私はすごく悲しくてけど、たくさんいい思い出を作って、一生に忘れません。



このフォーラムの後で、私は現在大学間きょうりょくのじゅうようせいを知っています。留学生のプレゼンテーションは、せいかいの自然災害救援を多様な視点でとられました。例えば、火曜日のJARのスピーカーは、日本人いがいのわしゃについて話しました。英語を話す人のために、このグループは、災害の発生後の時間にかんするべんごしとしじを英語でいきようしています。こののえんじょは大学生によっていきようされることもあります。例えば、エンジャニリングの学生や法律学生区政には、そのような災害ののちに、お金だけでなく王区の者があります。大学が少なくとも4リグループで協調的な取り決めに結んでいるならば、災害後えんじょはかんたんだろう。多くの

の国にがとくていのニーズを持っており、特定のしゅうかんについては、ちうくの日本人の留学生が生じたように、日本のしゅうかんはほうさいや援助にかんしてさえかこにねざしています。

しかし、私は他の大学や国の学生が異なる国のしゅうかんにあった援助や特別なニーズを持つ援助を提供できると信じています。スミス大学の学生は、メンタルヘルスの問題や体しょうがいを持つ人々について話しました。これはひじょうにじゅうようだと思います。自然災害の後、メンタルヘルスの問題を栄えている人はいぜんとしてカウンセリングに参加するひつようがありますが、これは常に考えられるものではありません。多くの人々にとって、これは一時的なじゅうよや水などのにくたい的なニーズとおなじくらいじゅうようです。これで、大学生も手伝うだと思います。技術を駆使して、世界中の大学生がボランティアとして聞きそうだいんになり、災害地域の人々を手伝うことができます。学生はまた、これらの取り決めの恩恵を受けるでしょう。それは、大学生が異文化体験を得ることができるようになり、彼らの特定の興味についてもっと学ぶことができます。2012年のハリケーンサンディの場合、エンジャニリングの学生がポータルワオータプロジェクトやその他の重要作業に取り組むことができました。学生はしばしば過小評価され重要な仕事を与えられません。でも、このフォーラムは、犠牲者ではなく変化の仲介者として学生について話したのでじゅうようです。

それはまた、常に話されているわけではない異なるグループの人々の特定ニーズに焦点を合わせました。高校生でも災害の準備に役立つことができると私は思います。予防と援助の両方が需要であり、学生はその両方を助けることができます。



今回国際学生フォーラムに参加した理由として、海外学生と協力しながら災害や防災について考えるというテーマにすごく魅力を感じたからです。空港アテンド班に属していたので空港まで海外学生を迎えに行ったのですが、最初に感じた感想としてみんな日本語がすごく上手だということでした。もう少し英語でのサポートが必要だと思っていたので単純にとっても驚きました。このことは今回のフォーラムにおいて一番強く思うことで、世界有数の難しい言語として認知されている日本語を学び、「災害と防災」という普段あまり深く考えないかもしれないテーマについてディスカッションする、そういった難しいことに挑戦する海外学生の姿勢がすごく印象的だったと同時に尊敬に値し、私たち日本の学生達も感化された学生が多かったのではないかと感じます。

学外ツアーでは墨田区慰霊堂や池袋防災館を訪れるなどして過去の震災の悲惨さや、現在の私たちが出来ること・考えなければならないことなどを学ぶことができ、これまで自分が抱いていた災害というもののがいかに浅薄であったのかを思い知りました。今この場所で地震が起きたら、火事やテロが起これば…、考えてはきっとまだ起こらないから大丈夫、と高を括っていましたが、今回このフォーラムに参加したことでそういった考え方の危険性、災害の真の恐ろしさを学ぶことができ、これから生きていく上ですごく役に立つものを教えられました。

地震・津波・洪水といった自然災害は完全に防ぐことはできません。しかし、災害発生後の私たちの行動で減災させることは大いに可能だと思います。また放火による火災、森林伐採による干ばつ地域の増大など、人的原因で起こる災害は未然に防ぐことができるはずです。現在の私たちにできることは、何が必要か、どういった行動が効果的であるのかをしっかりと考え、自分たちの未来に向け行動し続けることではないでしょうか。(千家 詩織)



私はこれまでも国際交流に関心があり、度々研修やイベントに参加してきましたが、自分が迎える側、運営する側になったことはなかったので、とてもいい経験をすることができました。しかも、日本語や日本文化を学んでいる海外学生と会うのも初めてで、海外の学生と日本語で話すということ自体が新鮮で面白かったし、日本を客観的に見直し、他の国のこともよく知る良いきっかけになりました。

災害と防災という観点においても、想像していた以上にたくさんのことを学びました。防災館や原子力博物館の見学をし、様々な人のお話を聞くことで、東日本大震災のことで知らなかったこと知り、忘れていたことを思い出すことができました。自分の国のことでありながらこんなにも無関心で、他人事だと思っていた自分に驚き、これからは我がごととして防災意識や支援の意識を持っていこうと思いました。



海外学生と交流し、プレゼンを聞くことで、海外の災害事情についてもたくさん知ることができました。日本ではほとんど起こらないような洪水やハリケーンに悩まされている地域があったり、逆に地震がほとんど起こらないから対策をしていない地域があったり、自然災害って場所によってそれぞれ違うんだ、地球は広いなあ、ということを改めて感じました。災害に対する心構えにもお国柄が感じられ、大変面白かったです。海外から見た日本は、地震への

対策、準備がしっかりしているイメージがあるということも初めて知りました。そんな国にいながら何の準備もしていない自分を恥ずかしく思ったので、これからとりあえず非常持ち出し袋を作ろうと思います。

また、自分たちのプレゼンも大変良い経験になりました。自分たちのテーマであった「仮設住宅」について調べる過程では、想像以上に問題があり、想像以上に新しい工夫された形があることがわかったし、英語で発表するのは大変でしたが、たくさんの質問をもらえたことで、興味を持っていただけなんだと嬉しくなりました。

今回のフォーラムでできた色々な国の友達と、これからも交流を続けていけたらと思います。貴重な機会をいただきありがとうございました。(千葉まどか)



前半の学外ツアーでは、過去や現在の災害について、衝撃的な事実や正しい知識を得ることができました。特に印象に残ったのは、東京慰霊堂・復興記念館です。関東大震災や東京大空襲では、人々の生活様式や連絡手段等が現在とは全く異なる状況の中、家財道具一式を持って逃げたため町中ごった返し、それが火災を広げる一因になってしまうなど、今では考えられないことも起きました。また、意外にも同じようなこともありました。例えば、震災直後に、デマや誇張された情報が流れてしまうということです。関東大震災時には、誇張された合成写真(これは、甚大な被害を他の地域に分かりやすく伝える意図もあったようです)やデマによる差別が行われていました。現在で言うと、SNSで何でも速く伝わりやすい一方、デマ等の不必要な情報も一瞬で広まりがちです。それが人々の不安を煽り、地震発生だけでない、更なる大混乱や問題を招いてしまいます。それを防ぐために、情報を鵜呑みにせず、物事の真偽を見極めることが大切だと、改めて実感しました。

後半のシンポジウムでは、フォーラム参加者、陸前高田を訪問した学生、実際に支援をされている方、様々な立場の方の発表や話を伺うことができました。そのお話の中で、私は、「わがこと」の精神が重要であると気付かされました。せっかくお話を聞いても、明日、それが我が身を襲うと思って聞かないと意味がありません。また、逆に支援や仲援をする側になっても、被災者の気持ちやニーズを「わがこと」として考え、自分がされて嫌なことはしないこと、被災地の状況をよく把握することなどが大切と学びました。また、マニュアルは大切ですが、それに頼らず、自分で柔軟に考えることも改めて必要と思いました。シミュレーションや訓練を形骸化せず、緊張感をもって行い、常に最悪の事態を想定して、多様な方法を準備していきたいです。

今後、自分たちが、経験や正しい知識を世界や次世代に伝えていく中で、受ける側が断片的に物事を聞くと、どうしても自分のものさしを使って物事をとらえがちです。それにより、伝える側の思いが、時代、文化、インフラ設備、考え方等が異なる人々に、うまく伝わりません。伝える側・受ける側双方が相手の立場を考えて物事を伝える・聞くことが必要と感じました。災害に限らず、相手の立場や考え方をよく知り、尊重し、それらを自分のこととして、どのように対応すればいいのか考えるという、本当の優しさや理解を、これからの生活で大切にしたいと思います。

このフォーラムで、海外学生と交流し、活発な意見交換等ができたことは、とても有意義な体験となりました。また、素敵なバディや友人に出会えたことは、これからの私にとって、貴重な財産になりました。



今回の国際フォーラムに参加することができて、誠に光栄に存じております。災害知識、避難対策などだけではなく、日本文化、日本事情も様々と勉強になりました。今回のフォーラムはきっと貴重な思い出になり、ここで学んだことを活用できるようにこれから頑張りたい。

今回の国際学生フォーラムでは、復興記念館、池袋防災館、東海テラパーク、原子力科学館などを見学した。池袋防災館で、地震、火事を体験した。地震の恐ろしさを実際に身で感じ、消火器の使い方を身に付け、大きな火が発生した時どうやって避難するかも教わった。これは以前知っていなかった重要な知識だと思っている。帰国した後、その体験を人々に伝え、地震の恐ろしさを覚えさせ、避難対策を身に付けさせるように努力したい。特に「いつか災害が起こるかもしれない」、「100%災害が起こらない場所はない」という危機感を皆に伝え、「安全不感症」ということを治したい。こういうような知識はいつか自分の命、他人の命を助けるかもしれないと信じています。また、東海テラパーク、原子力科学館で原子力発電の仕組み、生活で放射線の応用などを良く知ることができた。発表会を通して、各国の災害と災害対策を知り、自分の国の災害対策について進歩できる点も知った。講演と討論会に参加して、ボランティア活動の正しいやり方、支援する側と支援を受ける側の注意すべき点も教わった。

自然災害がいつ発生するか分からなく、自然災害を起こさせないこともできないが、損失を小さくさせることができると信じている。私たちは以前の経験を踏まえて、災害の恐ろしさを意識しながら、災害による損失をなるべく小さくするように頑張って、前へ進まなければならない。

今回日本に来るのが二回目だ。もう一度日本人の優しさに感動した。見学する時、日本人の学生たちは案内してくれて、分からないことがあったら、いつも親切に答えてくれた。道に迷う時、駅の業務員、警察、一般市民などに聞いたら、いつも分かりやすく教えてくれた。外国人向けの歌舞伎体験プログラムに参加して、日本の伝統文化をより良く理解することができた。中国も日本のように伝統文化を保存し、発展すべきだと思う。また、日本人、他国の皆さんとのコミュニケーションを通して、異文化への理解が深まった。目で見た日本、身で感じた日本を国の人々に教えて、日中友好の架け橋になりたい。



今回は、国際フォーラムに参加することができて、誠にありがとうございます。本当に珍しい経験だと思っていて、世界6カ国の大学生の皆さんが1週間をともに過ごしながらか、「災害と危機管理ーグローバルなネットワークの構築にむけて」というテーマに関する議論をグローバルな視点から意見を交換しました。大学生の私たちが何ができるのか、フォーラムで、皆さんは自分の国で起こった災害を例にあげながら、自分のアイディアを発表しました。私の初来日経験として、本当に貴重だと感じています。

学外スタディーツアーで、私たちは復興記念館、池袋防災館、東海テラパークと原子力科学館を見学しました。色々な体験をしていて、防災や復興に関する基本知識を学ぶことができました。視野を広げて、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしました。皆さんは自分の国のことについて交流して、相手の国のことも積極的に話しました。まさに、地球村の中に住んでいる実感があります。

そして、今回のフォーラムを通じて、災害と危機管理に関する知識をよりよく勉強することができました。自然災害はいつ起こるか、人間が知らないのが怖いと感じていて、ですから、そのダメージを減らすために、日常の準備と災害発生後の復興に力を尽くすべきだと考えています。今回は、皆さんが自分の国の自然災害について話し合いましたが、人為的災害についてはほとんど話していないようでした。私は来日前に、人為的災害について興味を持っているので、もし次回でよかったら、ぜひ人為的災害について皆さんと意見交換したいと思います。皆さんは手を繋いで、災難を超え、未来へ進めたいと思います。

今回の機会をいただいて、本当に感謝しています。私は初めて日本に来ましたので、大好きな日本文化と直接に接触して、本当に良かったと思います。今回の経験を通じて、日本の災害対策を大変勉強になりました。これからは、皆さんの国の防災に採用したいところを活用して、どうやって中国で有効な災害対策を広げることについて、研修したいと思います。初めての日本経験としては、未来の進路にも役に立っていると思います。短い時間ですが、日本の皆さん及び外国の人の皆さんの親切を感じました。まだまだ日本に行きたいです。最後に、日中関係の架け橋になったら、光栄だと思います。これからも、よろしくお願いします。



お茶の水女子大学国際学生フォーラムに参加させていただき、とても感謝しております。発表だけではなく、見学や体験を通じて様々な天然災害に関することを学びました。

東日本大震災が起きた時には、アメリカで色々な情報が回りました。しかし、不正確な情報は多かったので、このフォーラムでの発表を通してその時のおそろしい状況をもっと詳しく分かるようになりました。たとえば、原子発電所で説明していただき、大変勉強になりました。実は、原発のことは大ざっぱな理解をもっていました。見学をしに行くと、色々学び、福島県で起きた事故を初めて理解できました。特に、水が重要な役を演じるということが分かりました。そして、日常的な生活に放射線の役について学び、驚きました。宝石を染めたり、医療機器を消毒したりする放射線はよく使われているそうです。

東海テラパークでも池袋防災館でも学んだこととつながり、津波のことももっと詳しく分かりました。様々な地震についての説明を聞くだけでなく、経験もできて、感動しました。避難訓練をよくしたり、防災を常に改善したりしている日本はまだ地震の影響で被害を受けたり、死者を出たりするとはとても信じられないし、悲しいと思いました。

色々なことに感動させられましたが、復興記念館が特に強い印象を残りました。関東大震災は名前だけで知りましたが、実際に地震が引き起こした火災のことを何も知りませんでした。なので、ガイドがしていただき説明は大変勉強になりました。その時災害の情報はどうやって国に回ったのかや、どうして死者がそんなに多かったのか等、興味深い説明だと思いました。主に、災害の情報を国中に広めるように写真を合成するのが道徳的に良いかどうか、考えさせられました。

その上で、東日本大震災の影響で大河小学校で起きた悲劇も災害の時は何が正解か不正解、というのにも考えさせられました。宮野さんは先生達は避難所地図を信頼したのせいでもう安全な所に行っていたのを推定して、間違えたという説明をしてくださいました。その例を通じて推定の危険を表すつもりだったと思います。しかし、国民は大災害の場合に政治からもらった情報を信頼できなければ、誰を信頼できるのですか。その質問について深く考えさせられました。



それゆえ、このフォーラムに招待されて、とても感謝しております。





私はタイから来ました。プレイピライと思います。タイ人の本名は長くて呼びにくいので、いつもみなさんから「ジュン」って呼んでいただきます。ジュンの意味は日本と同じような意味で、純粹の「純」です。まず、お茶の水女子大学に第6回国際学生フォーラムに参加する機会をいただき本当に感謝を申し上げます。正直言うと私はずっとこの活動に参加して、お茶の水大学に交換しに来たいとずっと感じておりました。結局、来られていろいろ交換できて嬉しかったです。お茶大学の先生・スタッフ・学生さんにずっと1週間ほどお世話になって申し訳で感謝しています。色んな国からいらっしゃったの皆と一緒に時間を過ごしたり話したりとても楽しい時間になりました。

この前には、困ることがありました。タイは災害が少ない国で会ったものは被害もあまり大きくないので、「フォーラムでどんな内容を発表してよいのか？干ばつの内容を発表したら面白いのかな？」と困りました。しかし、チェンマイ大学の先生のおかげで、発表内容・日本語のチェックを手伝ってくださりまして、お茶の水大学で発表できるようになりました。また、お茶の水大学の皆さんが私の日本語や発表した内容を分かってくださいまして、とても感動です。

災害についていろいろの活動・災害に関する場所を見学したり、色んな国の災害について発表を聞いたり、日本の災害・危機管理について発表を聞いたりできてとても役に立てると思っております。以上の通り、タイは災害があまり起こらない国でタイ人の性格ものんびり・楽ですので、もし、何が起こったら大きい被害をもたらします。私はタイ人の一人として、被害を少しでも減らせる方法があればやってみたいと思い、タイから遠く日本に来て災害・危機管理についてことを学べて、色んな国のケースを勉強できて、とても光栄と思っております。これから、タイにはどんな災害が起こっても意識を持ち、冷静的に簡単な対策方法を探しようと思っております。「災害はいつ起きるか誰でもわからない・分かるのは絶対起こる」といつもこういうような考え方をもちます。

最後に、素晴らしい活動・フォーカス・セミナーを行われていただき本当に感謝を申し上げます。外人として、素晴らしいお世話をしていただき感動し、感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。



お茶の水女子大学の第6回国際学生フォーラムに参加した私は、タイのチェンマイ大学人文学部日本語学科のサイパット・パッターノンと申します。なぜ、今回のフォーラムに参加したかという点、国際シンポジウム『災害と危機管理—グローバルなネットワークの構築に向けて』というテーマは面白いと思って、ほかの国の人たちは災害についてどのような意見を持っているのかに関心をもって参加しました。最初は発表や外国から来た友達と話すことなどのいろいろなことをちょっと心配しました。しかし、フォーラムの最初日にお茶大の先生方と学生方にあたたかく歓迎してくださって、キャンパスを案内して下さいました。その後、日本人の学生たちと外国人の学生たちと一緒に東京の中に、復興記念館に行って震災について勉強したり、池袋防災館に行って体験したり、江戸東京博物館見学して歴史を学んだり、歌舞伎体験したりして様々な活動をしました。それに、茨城県に行って安全対策や原子力について勉強して知識を得ました。色々な活動をやりながら、参加したの皆さんと色々なことを話したり、食事したりして皆と仲良くなりました。それ故に、フォーラムに参加した学生の皆さんのすばらしい発表を聞いて、沢山の質問や意見などを交換して、すごく勉強になりました。フォーラムが終わった後に、災害をやめることはできないことを分かった上に、被害を減らすために学生として自分たちはどんなことができるか、支援のためにどんなのように支援すれば被害者にもっとも役に立つかも考えられて認識されました。これから帰国した後にフォーラムから学んだことを自国の人たちにボランティア活動などを通じて知らせようと思って、自国でも他国でも万が一の時に助けられるように頑張りたいと思います。今回のフォーラムから私が防災と危機管理についての知識を得るに加えて、新しい仲間もつくれまして、皆様に本当に感謝を申し上げます。すごくいいプログラムだと思いますが、時間はぎりぎりでありあまり詳しく勉強できなかったところもあったので、もし時期を長く伸ばすことができれば、もっと長くほしいです。ありがとうございました。



今回、国際学生フォーラムに参加したのは「留学生と交流ができる」という点に魅力を感じたためでした。日本では、幼稚園や小学校の頃から防災教育が施され、地震が来たら机の下に隠れる、また火災の時はハンカチを口元に充てて逃げる、「いかのおすし」という合言葉も識字率と同じくらい高い確率の正答率になるかもしれません。そういうわけで、正直、この国際学生フォーラムは防災大国日本の災害についての知識を海外留学生が学ぶ場に日本人学生が参加する、そんな気持ちで参加を決めました。これは、海外留学生たちは、災害・防災・復興に本当に興味があった人もいるとは思いますが、大半は日本人学生と似たようなもので、災害というよりも日本自体に興味があったのではないかと思います。

しかし、海外留学生と原子力発電所に出かけたり、防災センターで防災の大切さや注意点について学んだり、さらにプレゼンテーションで海外の状況を聞く中で、災害についてより真剣に考えるようになりました。例えば、避難一つとっても、その災害情報の伝え方や、各個人の災害意識の問題は日本も例外ではなく未だ発展途上にあります。日本は、様々な災害を経験し、防災を強化することで、災害による被害を少なくさせてきました。しかし「想定」を前提とした防災を過信することで、逆に被害が大きくなる場合があるのです。さらに留学生たちとのディスカッションを通して、海外留学生たちから見た日本の災害イメージについて直に知ることができ、日本の災害について進んでいる点も、逆に東日本大震災で弱点として明らかになった点についても、これまでで一番、日本の災害について海外に伝えなければならないと感じました。なかには海外留学生に日本の防災の現状を伝えるという機会がなければ、知りえなかったこともありました。また、実際に被災地へ行き、ボランティア活動をされた方のお話を聞いて「あーへー大変なんだなあ」と、どこか他人事でははいけないことだと感じました。自分の善意であっても被災地にとっては負担になる、これは残念なことでありながらまた現実であると感じました。また、外国人の被災者についても、留学生が隣にすることで、もし彼らが被災したらと身近な問題としてとらえることができました。相手のことをよく考え、支え合うことが重要だと思います。災害の多くは、あまり頻繁に起こるようなものではありません。そのため、知識や伝承が必要になってきます。このフォーラムのように、平時から災害知識を共有し、「自分に関わる問題なのだ」という意識を持つ機会を持つことが大切だと感じました。参加した留学生には、日本での知識を持って帰ってもらい、それぞれの国での災害に対して何かを実践してほしい。自分については、これからも災害についての知識や意識を共有していきたいと思っています。

# 総評

## ネットワークと絆と

原 由紀恵

お茶の水女子大学 グローバル人材育成推進センター 特任助教

地球の各所に住み学ぶ学生達が、短期間でも一つの場所に集まり、考えや行動を共有することからなんと化学反応が産まれることだろうか。今回のフォーラムでは「ネットワーク」をテーマに、海外大学生と本学学生が災害と復興について何ができるかを考えた。国や文化の多様性、加えて多様な専攻から視点を持ち寄りアイディアを出し合い、それをすぐに発展させまた吸収していく。こうした姿を観察する私は大きな頼もしさを覚えていました。

開講式の日には都内に珍しく雪が降りました。海外からの長旅に寒さでは、昨年よりひと月早めた2月の開催は負担であったかと心配する私でしたが、海外大学生とお茶大生が一同に揃った部屋に入ると、エネルギーいっぱいなのです。今年は全体で27名という大所帯。私からの挨拶は、事前にいろいろ考えるも、その場で心からすんなり出てきたのは「元気な皆さんに会えて嬉しい」ということです。来日前からバディとして交流を暖めてきたお茶大生と海外大学生は、自己紹介でも冗談が飛び出すなど打ち解けており、内容盛り沢山のフォーラムはこうして幕を開けました。

今年度のフォーラムでは冒頭から学外活動が3日間続いてしまうこととなり、その1日目の日程を終えた時点で、疲れはないかと心配に襲われました。しかしその2日目の茨城県東海村渡航では、早朝のバス集合時間に皆時間厳守で大学に現れて、バスの中でも歓談が続いています。一安心。東海テラパークでは、原子力の基礎などについて1時間の講習がありました。専門用語もある中で難しすぎたか、昼食時には静まり返っておりまたも心配しましたが、午後の質疑応答では活発な質問が8つ以上も出たところに、学生は静かに見えても思考を端々に巡らしているのです。

シンポジウムでは活発に発言や意見の交換が続きました。中日であったグローバル文化学環企画では、グローバル文化学環の先生方から、これまで計6回の開催を行ってきたが今年のフォーラム参加者は一番優秀ではないか（日本語力含め）とこっそり、お言葉を後に頂きました。語学力というのは、学べる情報を増やします。学生が書いたグローバル文化学環企画のアンケートには漢字とかなを沢山使いこなした明確な意見が述べられており、先生方を感動させました。

このフォーラムでは、災害・復興といった課題を、他人事ではなく自分のこととして受け止める「自分ごと」という考えがありました。今回の私達が据えたテーマはネットワークです。現代ではSNSなどの情報ネットワークが構築されています。この情報や人と人のつながり、というものには無限の意味があるように、このフォーラムでは学生の絆に無現の可能性を感じました。防災についての知見を未来や世界に共有したり、知恵を役立てた

り広めたり、何が被災地で必要とされているかニーズを発信したり把握したり、正確な情報の大切さ、過去の経験の伝承、想像ではわからないことがあるから体験を共有することの意義、海外の方など言語が分からない方への情報伝達の必要性、また普段からの繋がり  
の大切さ、そして震災に自分のこととして関心を持つこと、自分に何ができるか、自分で考えること。災害時には普段からのネットワークが真価と底力を発揮すると学びました。  
これからの社会を担うみなさんが、国を超えて繋いだネットワークが、それぞれが大切な  
ネットワークのハブとなって広がっていくことを信じてやみません。送迎会のときに、名  
残惜しく涙ぐんでいたみなさんの姿が心に残っています。その絆を大切にね。

最後になりましたが、フォーラムに参加して下さった皆さんはもちろんのこと、素晴  
らしい学生さんたちを本学にお送りくださった、チェンマイ大学、ワルシャワ大学、大連  
理工大学、釜山外国語大学、ヴァッサー大学、スミス大学、マウントホリヨーク大学の先  
生方、本フォーラムの教育活動にご協力くださった本学の先生方、海外学生受入を助成  
くださった学生支援機構（JASSO）、開催が近づくにつれ八面六臂の活躍をしてくださった  
長塚尚子 AA、阿久津典子 AA、学生のボランティア活動面を疎漏なくマネジメントくだ  
さった高柳磨美 AA、相羽美代子 AA、皆様のお力がなければこのフォーラムは存在しませ  
んでした。心よりお礼申し上げます。